

仙台青年

SENDAI YMCA NEWS

10



— 特集 — 仙台YMCA国際ホテル専門学校

ホスピタリティ

昨今、AI関連の事業が急速に発展してきているというニュースをよく目にします。本校が設立された1988年は、Windows1.0のリリースからわずか3年。当時から見ると大規模な技術革新が進み、ロボットやAIがさまざまな仕事や作業を効率的にこなす現代は、当時から見ればSFの世界のようです。

AI技術は、ホテル業界にも活用されています。例えば、接客ロボットが受付や案内を担当し、人手不足を解消しつつ人件費削減にもつながっています。また、業務の効率化により作業量が減り、生産性とサービスの質が向上しています。さらに、自動翻訳を利用した案内や宿泊管理もスムーズに行えるようになりました。加えて、顧客のニーズを予測して収益を最大化したり、設備や燃料、食材の無駄を削減して廃棄を減らすことも可能となりました。

しかし、すべての業務がAIやロボットに置き換わるわけではあ

りません。そこには、人間にしかできないホスピタリティがあるからです。例えば、気温や湿度、お客様の年齢などを考慮し、「今日は暑いので、特別に冷やしたお水をどうぞ」といった言葉を添えておもてなしをすることは、機械には難しいでしょう。お客様が望むサービス、期待を超える提案や温かい対応ができるのは「人」です。

AIやロボットが進化した今こそ、私たちは「人」の価値を見直すことが重要です。技術がどんなに進化してもお客様が求めるのは、人と人とのつながりや心地よいおもてなしの体験です。私たちは学生たちに単に技術や知識を教えるだけでなく、相手を心から大切に思いやりを持つ「愛と奉仕の精神＝ホスピタリティ」を育てるのです。このことはたとえAIやロボットがどんなに進化しても今後のホテル業界やサービス業界において不可欠な要素であるはずですが、私たちは学生一人ひとりとしっかり向き合いながら、これからも愛をもって共に歩んでいきます。

(教務主任：佐竹辰太郎)

第2面につづく

YM 検定

本校には、料飲サービスの知識と技術の習得を証明する業界唯一の国家資格「レストランサービス技能士」を目指した授業があります。この国家資格は、レベルにより1級から3級に分かれており、在学中に3級の取得を目指しています。

1年生の夏期実習が始まる前には、国家試験を参考にしたYMCAオリジナル検定試験であるYM検定を実施しています。2か月間に及ぶ企業実習に自信をもって参加することができるように考えられた検定です。

今年のYM検定はホテル科とおもてなし科の計32名が挑戦しました。検定当日は多くの先生方や先輩が見守る中、一人ひとり試験が実施されます。日頃の練習ではスムーズにサービス出来る学生も、緊張のあまり手が震える、手順を飛ばしてしまうなど失敗もありました。当初は4時間ですべての試験が終了する予定でしたが、再チャレンジなどもあり8時間ほどかかりました。学生も指導する講師も決して楽ではない試験ですが、苦難を乗り越えたというその過程が学生たちを成長させています。無事検定に合格し胸に合格の証である金バッヂを付けた学生は自信と希望に満ちた笑顔で実習先へと向かっていきました。



(教務主任：佐竹辰太郎)

夏期実習先訪問

本校学生は7月16日(火)から9月15日(日)までの約2か月間に渡り夏期実習を実施しています。本年度はホテル科7名、国際おもてなし科25名、国際ビジネス科23名の合計55名の学生が実習に取り組みました。国際おもてなし科と国際ビジネス科は留学生対象の学科です。

実習先訪問は8月末に毎年実施しています。実習期間の半分を過ぎた時期の学生たちがどのような表情を見せてくれるのか、期待に胸を弾ませて訪問しました。

高校生の頃から憧れを抱いていた旅館に自身でアポイントメントをとり実習に行った学生は、自身の課題と向き合いながら懸命に取り組んでいました。従業員の方やお客様から褒めていただける機会が増えたと笑顔で語っていた姿が印象的でした。また、国際ビジネス科の学生をととても高く評価してくださっているホテルがありました。そのホテルで実習している学生はフロントや売店販売、レストラン等さまざまな業務に携わることができていました。担当者の方は、レストラン業務では今後さらにメニューのオーダーをとることまでできると嬉しいとお話していました。国際ビジネス科は、ビジネス中心の学科のためレストランサービスを評価するYM検定を受けていませんが、このようなお話をいただくと大変誇らしい気持ちになります。

本年度の夏期実習は北は仙台市内から南は沖縄まで合計21か所のホテルのご協力で実施することができました。それぞれの実習先でホテルのユニフォームに身を包み、熱心に業務に取り組んでいる姿はとても格好良く自信にあふれていました。夏期休暇明けに学生たちの成長した姿を見るのが楽しみです。



(ホテル科担任：岸なつみ)



第27回 仙台YMCAチャリティゴルフ

27TH SENDAI YMCA CHARITY GOLF

備用品のご協力をお願いします！

皆様のご協力のおかげで、開催、個人の健康を促進しています。ご寄付いただいた金額は、本会の活動に活用させていただきます。皆様は、お近くのYMCA本部事務局にお問い合わせください。スタッフが必ずお応えいたします。

※参加費、保険料、保険金、少額の献金など、現地で納付です！
※当日、お振替の受付もさせていただきます。

開催日時：10月15日(土)10:00まで
TEL:022-222-7533 (受付係員：土屋 敬希)

第27回 仙台YMCA チャリティゴルフ

2024年10月17日(木) 雨天決行

【申込先】
各コースを募集致す。または下記の募集係までご連絡ください。
なお、参加費は申し込みサイトからダウンロードできます。【申し込み先】
TEL:022-222-7533 (受付係員：土屋 敬希)

仙台YMCA
チャリティゴルフ
募集係員：10月29日(日)

特別プログラムの
お知らせ

維持会費 (8月10日～9月17日)

皆様のお支えに、心より感謝申し上げます

◆一般会員 維持会員A

児玉 由子 吉田 一恵

佐々木 絹子

※敬称略



一般会員・サポート会員を
随時募集中です

ぜひ会員として、
仙台YMCAの活動をお支えください
お問い合わせ：本部事務局

TEL:022-222-7634

FAX:022-222-2952

ひかり組保護者 佐藤 法子 さん

YMCAとの出会いは「長男の保育園探し」でした。初めての保育園生活、近いところはもちろんですが、雰囲気良く安心してできる場所が良いな...と思っていました。YMCA加茂こども園（当時は保育園ですが）に見学に行った時、その優しい雰囲気と、子どもたち・先生方の笑顔が素敵で「この保育園に通ってほしい!」と感じたことを今でも思い出します。

あれから10年経ちました。0歳から入園した息子は10歳になりました。6年間保育園でお世話になり、卒園後もジュニアクラブでサッカーを続け、長期休みにはキャンプを楽しんでいる生粋のYMCA育ちです（笑）優しいリーダーたちやジュニアクラブやキャンプで出会った友だちとの関わりを楽しんでいます。

今は長女がこども園にお世話になっています。兄の送迎で、生後間もなくからYMCAの先生や子どもたちにたくさん声をかけてもらっていました。おかげさまでこちらも園大好きで、毎日楽しく通っています。1歳と少しで入園した娘は、年長さんです。園生活もいよいよ最後です・・・。

働きながらの子育ては大変なことも多く、今でも無我夢中の日々です。悩むこと、落ち込むこと、仕事に行きたくないこと（笑）もありましたが、どんな時でも温かく言ってくれる先生方からの「いってらっしゃい」「おかえりなさい」の言葉にどれほど救われたことか・・・。もう少しでその生活が終わってしまうのかと思うと、すでに寂しくなっています。

たくさんの優しさもらった子どもたちは、素直でのびのびと育ってくれています。（生意気で手に負えない時もありますが（笑））

YMCAとの出会いに心から感謝しています!!これからもよろしくお願いします!



「日本人に初めて会った」と、揚州(ヤンジュ)YMCAの児童クラブに通う男の子が話しかけてきました。「おはようございます!ありがとうございます!」と、知っている日本語で元気にあいさつした後、「なんか不思議な気分」と感想を言ってくれました。彼にとって「はじめての国際交流」が始まった瞬間でした。

コロナウイルスの影響で交流が途絶えていた韓国 YMCAとの連絡会議が9月9日(月)にソウルで行われました。仙台YMCAは、議政府(ウジジョン)YMCAとのパートナーシップを締結しており1994年より、フレンドシップキャンプやサッカーキャンプなどの交流を続けていました。コロナや互いのYMCAの事情により交流が途絶えていましたので再開できる機会を模索することを約束しました。

続いて開催された「韓国YMCA全国連盟110周年記念式」では、当時の韓国YMCAがおかれた歴史を知ることができました。日本が韓国を併合し植民地化する中で、韓国YMCAにも同様のことが起きていました。自治権は保証されていたものの、日本YMCA同盟に加盟することを条件に連盟の結成が強いられていたという事実です。当時の私たちが国の植民地政策を承認しそれを支持していたことを、日本YMCA同盟会長はお祝いのメッセージの中で謝罪しました。

いのちを守り平和の世界を築くことはYMCAが最も優先して実践していくべきことです。歴史に学び、痛みを知り、これからの子どもたちの未来のために平和を作り出す活動を積極的に展開していきます。

連載

加藤 総理事の
『みつかる。つながる。
よくなっていく。』

第14回
韓国YMCA



仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわざを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。

世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に拡げます。

私たちは、人と人とのかかわりを豊かに育み、隣人に伝えあう喜びの輪を拡げます。

子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

スタッフ 佐々木 清美

私の娘は幼い頃から、バザーやチャリティーラン、街頭募金などのYMCA特別プログラムに私と共に参加していました。中学生になってから、身近に感じていたYMCAでのボランティア活動に興味を持ったので、南大野田こども園に初めてボランティアとして訪園しました。たくさんの園児たちと触れ合うことに慣れていないため、接し方が分からず緊張していましたが、「ボランティアのお姉さん」ではなく、子どもや職員から歓迎され、親しみを持って名前でも呼んでもらえると、とても嬉しく感じ、いつしか緊張は解きほぐれていました。体を動かすことが好きな娘は、鬼ごっこやかくれんぼに引っ張りダコで、たくさん子どもたちに囲まれていくうちに、自然と笑顔が溢れていました。帰宅後、子どもを膝にのせて絵本を読んであげた時に足が痺れたこと、大勢の子どもが自分の手を奪い合って手をつなぎたがり、手が何個あっても足りないと感じたこと、次いつ来る？と何度も聞いてくれた子どものこと。ボランティア中にあったたくさんの出来事の話は、眠りにつくまで尽きませんでした。



いつでも誰にでも開かれている場所がYMCAにはあり、人と人とのかけわりの楽しさと温かさの中で相手のために働く喜びを、娘は確かに感じていました。親として、豊かに生まれ始めた娘のこころの成長は、とても嬉しいものとなりました。

能登半島は、いま

公益財団法人仙台 YMCA 理事 川上直哉



「3.11」の爪痕は、私たちに大きな痛みを残しました。でも、その回復の中で私たちは、たくさんを学び、そして気づけば、震災前と少し、違った私たちとなっています。

能登半島で地震がありました。テレビが連日報道する中、私たちは確かに「何かし

なければ」と思いました。あれから半年以上の時間が経ちました。世間は「能登」を忘れたかのようです。私たちは「これではいけない」と感じる。それは「3.11」を経験した結果かもしれません。

「3.11」と同じように「1.17」があります。阪神淡路大震災です。「1.17」を体験した皆様も、やはり、「これではいけない」と、能登を思っ

て感じておられます。東北と関西をつなげば、「これではいけない」という思いは、共鳴し増幅する。そうやって、私たちは風化に抗えるかもしれません。

今年の5月1-4日、「神戸ポート」と「石巻広域」と「東京むかで」の三つのワイズメンズクラブは、日本YMCA同盟と富山YMCAのご協力を得て、石川県輪島市の避難所・仮設住宅へ行きました。「餅つき」「コーヒー喫茶」「避難所運営のお手伝い」をさせていただきました(詳しい報告は<https://xfs.jp/JEG15>と、QRコード**から、ご覧ください)。

さらに6月15日、移動に往復2日をかけて、神戸ポートクラブの大野さんが「次の機会」を目指して、ふたたび能登半島の輪島市へ行かれました。輪島市で支援に当たっているのは富山YMCAですが、日本YMCA同盟の会議があり「人手不足になるので」ということで支援に行かれたそうです。「6月いっぱい避難所から仮設住宅への移動が終わる」というタイミングで、撤収に向けて忙しい避難所の現場であったそうです。5月には見られなかった様々なボランティア団体の姿も見え、特に自衛隊から引き継いだ「ピースポート」のお風呂支援は、とても温かかったです。なお、被災者各位のご様子を見ると、先行きに不安を感じておられ、仮設住宅集会所の活用もまだ本格化せず、活気に乏しい感じ。その中で5月の



「餅つき」を覚えていてくださり、また「仮設の店舗ができた」とうれいニュースに喜んでおられたのが印象的だったそうです。

被災地で一番つらいのは「風化」です。忘れられ見捨てられているような、切ない思いが、被災地で一番つらい。つながりを広げることが、この「風化」に抗する一番の道だと思います。仙台YMCAは「仙台キリスト

教連合」につながっています。同じく「仙台キリスト教連合」につながる催事に「世界食料デー仙台大会」があります。今年の「世界食料デー仙台大会」は、能登半島震災の現場から支援組織の責任者をお招きし、共に語り合う会として開催されます。日時は10月12日(土)午後1時半から、場所は仙台市青葉区錦町の日本基督教団東北教区センター・エマオにて開催されます。オンライン(Zoom)でも、ご参加いただけます(sendai.foodday@gmail.comにメールでご連絡ください)。

そして「11月24日(日)の前後に能登へ支援に行こう!」という計画が立てられ、そのための予算も確保され、10月12日の催事を契機に「広く、仙台圏のみならず、支援への参加を呼び掛けたい」と考えておられます。

能登の現地で支援に当たっておられる富山YMCA、そしてそれを支える日本YMCA同盟、そこにつながる全国のワイズメンズクラブと仙台YMCA。そして、仙台YMCAがにつながる「仙台キリスト教連合」の関係団体から、この「仙台青年」をお読みくださるみなさまへ。そのつながりが、また能登の現地へつながれば——と願っています。

「能登半島は、いま」どうなっているか。ご一緒に知り、そして繋がり、風化に晒される現場をご一緒にお支えできれば幸いです。ここにご案内しました。

第30回 世界食料デー・仙台大会
震災支援における教団協力のつながりと協力

講演: 善きサマリア人のように
—能登ヘルプの支援活動について—

講演者: 岡田仰 (おかだこう) 氏
能登ヘルプ代表 金沢独立キリスト教会牧師

10月12日(土) 午後13:30 (開場13:00)

会場 (対面会場はオンラインにて実施します)
仙台市青葉区センターエマオ(若 大森ビル) (地下鉄/有楽町線大森駅 徒歩1分)
*会場は定員に達するまで、先着順となります。

Zoom 開催時: 下のメールアドレスを登録してください
仙台市青葉区センターエマオ(若 大森ビル)にて開催します。
*Zoom 参加費は無料です。Zoom ID: 980 888 8888
*Zoom 参加費は10月12日当日に郵送でお知らせします。

主 催: 世界食料デー仙台大会 実行委員会(日本基督教団東北教区)
共 催: 世界食料デー仙台大会 実行委員会(日本基督教団東北教区)